



にじいろレター

No.13



新しく誕生した認定看護師です！

小児救急看護認定看護師

4階東病棟 野崎 久美



子どもは認知能力や言語能力が発達途上のため、多くが自らの症状や気持ちを適切に訴えることができません。泣きながら検査や治療を頑張っている姿を見て、もっと看護として、できる事があるのでは？と思い小児救急看護認定看護師を目指しました。

今後は、「子どもにとっての最善とは」を考えながら、病気の子どもだけでなく、すべての子どもが健やかな成長発達に必要な支援が受けられるようなサポートと小児救急看護の質向上を目指して活動していきたいと思います。よろしくお願いします

がん化学療法看護認定看護師

外来化学療法室 村社 環



今年の6月に、がん化学療法看護認定看護師の認定を受けました村社（むらこそ）です。外来化学療法室に勤務しています。

同じ分野の2人の認定看護師の方と一緒に、がん化学療法を受ける患者さまやご家族が、安心して治療を受けられるように、認定看護師として力を発揮していきたいと思います。また、がんに関わる看護師の方々の支援が出来るよう、力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

救急看護認定看護師

救命救急センター 吉田 亜希子



救急看護の対象は小児から老人まで、疾患も内因性から外因性の疾患と多岐にわたります。よって救急看護の知識や技術は救急看護に関わる者だけに必要なものではなく、看護職には必要なものであると考えます。

救命センターが稼働し2年が経過しました。救急搬送されてくる患者も増加し、自分たちの行っている看護が患者・家族のニーズに適しているのか、毎回考えることばかりです。みなさんと一緒に考える機会を持つことができればと思っています。よろしくお願いします。

特集：「小児救急看護」



小児救急看護認定看護師とは

小児救急看護認定看護師

野崎 久美

少子・核家族化、および育児不安が社会問題化する現代社会における小児救急医療において、最新の知識や技術を持ち、自律して対応し、専門性の高い看護を実践できること、小児救急医療の水準の向上と図ることなどを目的として「小児救急看護」は開設されました。

「子どもの権利と尊厳を保障する」ことを基盤に、子どもの成長に合わせた発達支援や検査、処置等に不安、恐怖を感じている子どもへの治療参加への支援等、子どもの権利を守り看護介入出来ることを基本としています。実際に担う役割としては、救急医療や集中ケアといった緊急性の高い状況下の子どもの身体的判断を行い実践、スタッフへの指導を行います。また、育児に不安を抱える家族に対する育児支援や児童虐待への対応等、子どもの事故予防指導なども行います。小児のコンビニ外来を減らす目的で、家庭における突発的な症状の初期対応を家族ができるようにアドバイスします。すべての子どもの健全な成長発達のために家族が安全に生活を送れるように支援する看護師です。

子どもの権利を守るとは？

「子どもに医療処置を説明しても理解できない」「わからせるには時間がかかる。現場は忙しいから無理」と思いませんか？「2歳から注射されるのがわかる」と言われています。採血にかかる所要時間も子どもの協力があれば、馬乗りになって採血するより費やす時間は短時間で済みます。加えて忘れてはいけないのが、子どもの恐怖心です。その時の恐怖心や本当のことを教えてくれない、嘘をつかれたなど悲しい思いが、治療をスムーズに始めるには妨げになります。子どもの知りたいことを知り、理解できれば子どもの「頑張れる力」を引き出すことができます。

そのためには「心理準備（プリパレーション）」が必要です。ツールや道具がなくても実物を見せながら説明し「この手はこっち」など進行に合わせて誘導する即興的方法でも子どもは心の準備を行います。もう一度「子どもの権利」を考えながら、子どもの検査・処置を見直してみませんか。



コンサルテーション



小児救急看護に関してお困りのことありませんか？

- ◇小児の救命技術指導
- ◇子どもへの接近法
- ◇家庭での不慮の事故予防の指導
(溺水・熱傷・転落・誤飲など)
- ◇育児指導など
子どもに関する研修など
何でもお気軽に声をかけてください。